

## 全私保連 保育運動新しい時代は子どもから

## いつもの保育の実践と 写真で伝える 私たちが伝えたい 7つのメッセージ

3

子ども自身に乗り越える力を育てましょう 子どもの「自分でやりたい」を大切にしましょう

2 子どもの「遊び」を守りましょう 1 子どもの思いを受け止めましょう

私たちが伝えたい了つのメッセージ

5 4

6

みんなで食べると美味しいんです 子ども同士の関わりが大切です

子どもは自然が大好きです



……子どものうちに「豊かな食事」 みんなで食べると美味しいんです 経験 を

6

けでは美味しい食事は成立しません。 の生活にも深く浸透してきました。ですが、ただ「食べる」という行為だ 好き嫌いなく健康的に食べることや、食を通して「心」を満たすために 食事は生きるために欠かせない行動であり、その大切さは私たちの日々 人やものとの関わりが重要だからです。

は、

だけの時間で食事を摂っていた子どもは、保育園・こども園でも、友だち 家庭で、家族が食べる前あるいは食べ終わった後に、じっくりとその子 孤食問題」— -これは、乳児期から子どもに影響を及ぼします。



的に好き嫌いも多くなります。「美味しい」を共感したり、初めての味を受け入れることが難しく、必然乏しい子どもは、自分の主観でしか食べ物の味や食感を知ることができず、がいなくなってから漸くごはんに手をつけます。 人と一緒に食べる機会にがいなくなってから漸くごはんに手をつけます。 人と一緒に食べる機会に

をがて保育園・こども園で人と食べることに慣れてくると、だんだんとやがて保育園・こども園で人と食べることに慣れてくると、だんだんとれば「与えられた食事」であり、意欲や楽しいといった気持ちは膨らみません。

これらはどれも、「ひとり」では気づけない、得られないことばかりです。げかけてくれる、考えてくれるようにすることが大切です。られるようになることです。大人が「教えよう」ではなく、子どもから投あると思いますが、大事なのは正解を見つけることではなく、自分で考え食べるタイミングや、食べられる量は、初めはわからず失敗することも

が子どもたちにとって最適であるかを見直す必要があります。 これらはどれも、「ひとり」では気づけない、得られないことばかりです。 これらはどれも、「ひとり」では気づけない、得られないことばかりです。 これらはどれも、「ひとり」では気づけない、得られないことばかりです。 これらはどれも、「ひとり」では気づけない、得られないことばかりです。

くのです。れ、人と心を通わせ、刺激し合うことでより健康的なものへと成長してい滲み込んでいきます。食事は一方的に与えられるものではなく、ものに触子どものうちに経験した「豊かな食事」は、子どもの舌に、体に、心に